



駒本の力

駒本小学校（家）

教育活動紹介便り

NO. 24

平成 28 年 4 月 15 日

数々の、駒本の愛

校長 田中 克昌



今年の春は、恵みの雨が多く雨模様の日が続いています。駒本小ではその恵みの雨を受け、駒本の愛が確実に育ってきています。今回は、駒本の愛をいくつか紹介します。

左の写真は、子どもたちの登校風景です。6年生を中心にした高学年の子どもたち、1年生の子どもたちをお迎えに行き、一緒に登校してきます。これは、駒本小の伝統として培われてきた活動です。手をつなぎ、横で寄り添いながら1年生と6年生と一緒に登校する姿に、子どもたちの1年生を思うやさしい愛を見て取ることができます。挨拶の仕方も1年生に教えてくれています。とても微笑ましい姿です。



次の写真は、雨の日の玄関前での様子です。ここにもたくさんの駒本の愛を見ることができます。勤務時間の前から、副校長先生を始めとして、6～7人もの先生方が子どもたちを迎え、タオルでランドセルの背を拭きながら挨拶をし、迎え入れています。子どもたちを笑顔で迎えて、笑顔にして帰す、という本校で最も大切にしている「愛」

を見ることができます。また、挨拶当番の札をさげた子どもたちが挨拶当番に励んでいます。ここにも、子どもたちの礼儀正しさと学校の温かい雰囲気を作り上げる「愛」を感じます。さらに、子どもたちは、雨の日には必ず玄関前で、傘のしずく落としをしています。ここには、礼儀正しさと玄関や廊下が滑らないようにという気遣いの「愛」を見て取ることができます。たった一枚の写真から、3つの愛を感じることができます。



3つめは、音楽朝会での手話付きビリーブの練習です。今年の入学式から始めた、手話付きのビリーブを1年生を迎える会や離任式でも行います。歌だけではなく手話を付けることで、歌詞の内容を相手に伝えたいという、やさしい「愛」を見て取ることができます。ぜひ一度、ビリーブの歌詞をじっくりと味わってみてください。本当にお互いに支え合うことの大切さが綴られています。



4つめが左の写真です。これは、机や椅子を動かすときの消音のために、学校支援本部が集めてくれた硬式テニスのボールをPTAの皆さんが協力して切り込みを入れてくれました。そのボールを6年生が低学年の机や椅子に装着している写真です。高学年の子どもたちは、自分たちで着けましたが、低学年では難しいということで、6年生の子どもたちが積極的に、低学年の子どもたちのために活動しました。ここからも、子どもたちの下級生を思いやる素敵な「愛」を見て取ることができます。さらに、学校支援地域本部やPTAの役員の皆さんの子どもたちや学校の教育環境整備に対する深い愛を感じることができます。「駒本の愛」は、実はまだまだあるのですが、それは今後ご紹介いたします。

このように、教職員、子どもたち、支援本部、PTA役員に「愛と熱と力の駒本」の特に、「愛」がたくさん育っていることに、確かな駒本の力を感じました。

「愛」とは、命の時間を他者のために使うこと

6年生の国語の教科書に日野原重明さんの「君へ」という文章があります。そこには、「いのちとは、君たちのもっている時間であり、君たちが使える時間である。」と書かれています。その文章の最後には、「今君たちはいのちを自分のためだけに使っているのかもしれませんが、でも、大きくなったら、どうか自分以外のだれかのためにも、君たちのいのちを使ってください。」と書かれてあります。今まで、「愛」という言葉に自分自身が明確な定義をもつことができなかつたのですが、この文章に触れたときに、目から鱗が落ちるように納得しました。「愛」とは、「自分のいのちである自分の大切な時間を自分以外のだれかのために見返りを求めずに使うことである」ということなんです。

今回紹介した、子どもたちや教職員や地域や保護者の行動は、まさしく「自分のいのちである自分の大切な時間を自分以外のだれかのために見返りを求めずに使う」行動です。教職員は仕事の一部であるものの、教職員にも勤務時間やそれぞれの職務があります。朝の大切な時間をできれば、学級の授業の準備に使いたいものですが、それを越えての行動は、やっぱり「愛」なんだと思います。ましてや、子どもたちの行動は、本当にすばらしく素敵な「愛」の現れであると思います。

読書の質を高めよう

毎週火曜日と水曜日と金曜日の8時25分～35分までの10分間に、朝読書を実施していますモーツァルトの音楽がかかる中、全児童と教員が10分間静かに落ち着いた雰囲気の中、読書に勤しんでいます。今年読書の目標は、「読書の質を高めよう」です。学級文庫、図書室や図書館、またはお家から用意した本を読みますが、今よりも一歩、質を高めた本を選んで読めますよう、ご協力よろしく願いいたします。